

共生力

HP: <http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

Tel: 03-3222-4190 Fax: 03-3222-4199

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-3-9 第2太陽ビル 301

発行人: 黒田文男

第4回易県音楽教師養成研修開催

4年目を迎えた中国宋慶齡基金会との共同プロジェクトによる、第4回易県音楽教師養成研修（音楽教師培訓）が、河北省易県で、8月21日から2日間にわたって行われました。研修には、易県の音楽教師約100名が参加しました。当協会からは、黒田文男代表理事、吉田一徳業務執行理事が参加しました。また、来年度の教育交流受入事業（訪日団）の計画にむけて、三重県津市から、校長1名を含む教職員3名にも参加していただきました。



開会式では、初めに主催者を代表し、易県人民政府、王東風副県長からの挨拶、続けて、河北省教育局師範教育処、張入波副処長から挨拶があり、それぞれから、易県への教育支援プロジェクトに対する感謝とともに、この貴重な機会をしっかりとらえてレベルを高めてほしい、先進的な教育指導の考え方と理念を吸収し、それぞれの仕事のなかで、さらに多くの優秀な人材を育成し送り出すよう努めてほしいと、参加された先生方へのメッセージが述べられました。

中国宋慶齡基金会項目処、湯健軍処長からは、宋慶齡主席が生涯、子どもたちをたいせつにしたことにふれ、「音楽教師の技能とレベルの向上が、少年児童の総合素質の向上にとって、深い意義を持っている。易県人民政

府、教育局の大きな支援に感謝し、研修会の成功を願っている。」と挨拶がありました。

黒田代表理事からは、易県政府、教育局の準備に対する感謝とともに、「音楽は歴史や文化の理解に欠かせず、また言語教育の推進という点からも基礎的な教科である。研修を通じて、皆様方が音楽教育に一層励まれ、子どもたちの教育水準の向上、また未来の日中友好に寄与されることを心から祈っている。」と挨拶しました。

研修は、北京芸術学院から2名の講師を招き、幼稚園・小学校と中学校・高校の2グループに分かれて行われました。今年度支援した電子キーボードも参加者各人に用意されていました。

また、一日目午後の研修に先立って、三重県の枝松教諭が、「子どもたちが主体となり、いきいきととりくむ音楽活動」をテーマに三重県の音楽教育のとりくみについてレポート発表しました。会場からは、子どもたちが音楽の美しさを感じる指導について、伝統を教えることと音楽との結びつきについてなど、熱心な質問がありました。

2日間の研修は、声楽の基礎、発声、キーボードによる即興演奏、授業への応用などの内容で行われました。

今年は、参加者全員にアンケートをお願いし、研修の成果、今後に臨むこと、キーボードの活用についてなど意見をいただきました。

易県第三小学校訪問

中国宋慶齡基金会を表敬訪問

21日午後に易県第三小学校を訪問し、昨年の教育代表団として参加された先生が今年から取り組んでいる子どもたちの器楽合奏の課外活動の様子を見学させていただきました。先生は、昨年の神奈川での研修と学校参観がとても刺激になったと話されていました。



23日には、宋慶齡基金会を表敬訪問し、李希奎副秘書長に、黒田代表理事から、昨年の教育代表団派遣や易県への教育支援プロジェクトへの尽力に対して感謝の言葉を述べ、11月予定の教育交流派遣団の訪中の依頼と、来年は教育代表団をぜひお迎えして音楽研修を中心とした教育交流を行う計画であることを伝えました。

李希奎副秘書長(左から3人目)



第6期安東自由大学

大邱（テグ）セッションで、多文化共生を議論

大邱・花南初等学校を参観



▲慶北外国語大学前で、日韓の第6期安東自由大学の参加者

1クラス25名で、教育環境も充実



← 3年生国語の授業

第6回安東自由大学（大邱セッション）は、9月3～5日まで、安東市、大邱市で開催されました。

協会からは、安

東自由大学訪問団（教育学部団長・芹沢秀行神奈川教職員組合執行委員長）以下8名（文化教養学部の参加者を含め、総勢19名）が参加し、9月2日から6日まで、安東・大邱・ソウルを訪問し、「大邱セッション」に参加しました。全行程には、権重東安東自由大学名誉総長（元労働長官）と梁世勲元ノルウェー大使が随行されました。

8月20日、団は事前学習会を開き、初岡昌一郎氏（安東自由大学運営委員長）を講師として、安東市の歴史と地理的環境、非工業化の街づくりについて、また、大邱市について、朝鮮戦争の激戦地、韓国中部の商工業の中心地であるとのレクチャーを受け、教育と旅の接点は「チェンジ」にあるとの話をいただきました。

安東訪問では、世界遺産に指定された河回村（ハフェ）の街並みと木造旧家（支配階級であった両班ヤンバンの家）を参観し、中世の朝鮮の暮らしと儒教（儒学）に基づく生活を参観しました。

大邱市は、昨年の世界陸上開催の余韻が残っており、街並みは整備され、真っ赤に咲いた百日紅が街路を埋めていました。

セッションは市郊外の慶北外国語大学で開かれ、李永尚総長の挨拶に続いて、慶北外国語大学の朴魯保教授が「韓国における多文化政策」と題し、韓国の多文化共生政策について報告がありました。日本からは、上海日本人学校運営委員長の小暮剛一氏が「東アジアにおける国

際教育の課題」と題し、日本人学校の実態について報告がありました。また、教育学部参加者は、大邱郊外の花南初等学校を訪問。韓国の教育状況を視察し、教職員と懇談しました。参観した英語の授業ではかなりのレベルを感じさせました。又、25人学級であることも参加者の関心を集めました。その後、大元高等学校を訪問し、教職員と学生の国際交流について意見を交換しました。

翌日文禄・慶長の役（韓国では壬辰倭乱）の際、加藤清正の先鋒武将で、秀吉に大義なしと朝鮮側に身を投じたと伝えられる「沙也可サヤカ」（韓国では金忠善）を記念した達城韓日友好館を参観しました。

短い訪問期間でしたが、今年も参加者同士の交流は活発で、感銘を与えた安東自由大学でした。

第1回教育交流ホームステイ in 山梨

留学生と家族の笑顔が一つに



ホームステイに参加した学生とホスト家族ら（山梨県教育会館）

8月17日から19日まで、2泊3日で第1回教育交流ホームステイが行われ、5人の中国人留学生が山梨県5家庭を訪問し、友好と感動をもたらしました。

赤岡理事をはじめとする5名の山梨県教職員は、「友好の架け橋」になろうと、ホームステイの意義を認められ、家族ぐるみでホスト先を引き受けられました。今回参加した学生は、いずれも4月に日本語学校に入学し、まだ4ヶ月ほどしか日本語を学んでいません。初めての夏休みの時期、日本家庭での生活を体験することは、今後の語学学習ばかりでなく生き方にも貴重な体験を与えてくれたことと思います。国際交流は、人と人との交流が基本です。交流を通して、文化の違いを尊重していくという態度が相互理解を深め、友好と平和の大切さを学ぶと思います。今後もこの取り組みを発展させたいものです。

ご協力いただいた、山梨県公立小中学校校長会・同教頭会・山梨県教職員互助組合・山梨県教職員組合・フジ国際語学院の皆様にご心より感謝を申し上げます。

学生の感想文から（一部抜粋）

『ホームステイに来てよかった。甲斐で起きた戦国の事情、日本の建築、日本人の生活習慣…本当にいい勉強になった。これは人生の中で一つの旅だ。人と出逢い、人と別れ、喜びや悲しみなどが人生を組み立てているんだ。だから、人は勉強し、成長し、生活の真諦をだんだんわかるようになっていこう。留学の生活は難しいというけど、つらい時に、写真の中の皆さんの素敵な笑顔を見たら、必ず慰めになってくれるだろう。ありがとうございました。』（19才 男）